

海外に出る バイタリティー 必要と学んだ

私にとって今回の視察研修会は、初めての海外だった。言葉や生活習慣の違いに、かなりの不安を感じていたが、日本を外から見ることができるという期待もあった。

最初の訪問地、ウィーンでは、シェーンブルン宮殿の大きさと日本の建築様式との違いに感動した。IAEA（国際原子力機関）では、現場の日本人の方々から、自身の経歴や国際機関の職員としての立場、国際社会における

日本の役割など、興味深い話を聞くことができた。特に日本の原子力に関する研究レベルは、世界でもトップレベルにあるという嬉しい話を聞かせてもらった。そんな立場でありながら、職員に占める日本人の数は、未だ少ない。その原因の一つに、やはり「言葉の壁」があるという。

言葉が若者の海外進出を阻んでいる。英語力は必ず必要だと感じてはいたが、日本を出てみてその必要性を更に

強く感じた。ウィーン美術史博物館の見学やウィーンフィルハーモニー管弦楽団の公演では、オーケストラの国民が常日頃からこのような高いレベルの芸術に触れられる状況にあるということに羨ましささえ覚えた。

ジュネーブでは、WHO（世界保健機関）WIPPO（世界的知的所有権機関）の二つの国際機関を訪問した。この訪問では、国際紛争な

ど様々な事案に対し、国際人として中立的な立場で公平な判断を下す難しさを学んだ。

今回の研修で最も有意義だったのは、スイスやオーストリアでの街中の散策だ。その際とても驚いたことは、やはり、言葉に関することだった。店に入った際、レジの人は、私の前の客にスペイン語を話していた。次に私が英語で話しかけると、すぐに英語が返ってきた。言語能力の高さに感心させられた。

今回の研修で学んだことは、外国語を学ぶ意義と、海外に積極的に出て行くバイタリティーの必要性だった。これらの経験を、これからの高校生活に生かしていきたい。

8月初旬に県内の高校生を対象に、IAEA（国際原子力機関）、WHO（世界保健機関）、WIPO（世界的知的所有権機関）で働く日本人を訪問し、各機関の役割と日本人の活躍について学びました。



Reporter

藤島高校1年

ふじい たいち

藤井 太一

国際機関で働く日本人に
学ぶ視察研修会



WHOにて

8月初旬に県内の高校生を対象に、IAEA（国際原子力機関）、WHO（世界保健機関）、WIPO（世界的知的所有権機関）で働く日本人を訪問し、各機関の役割と日本人の活躍について学びました。

エネルギー とこと

2018年には日米原子力協定が締結してから30年の満期を迎えます。国は、使用済燃料を再処理する核燃料サイクル政策など原子力利用の長期展望を明確に示し、協定継続について米国をはじめ国際社会の理解を得る必要があります。

福井県経済団体連合会 会長 川田 建男

福井県環境・エネルギー懇話会

〒918-8004 福井市西木田 2-8-1
福井商工会議所ビル 6F

▶バックナンバーはコチラから

福井県環境・エネルギー懇話会 [検索](#)

次回は9月23日(金)掲載予定

視察研修会に参加した高校生が学んだこと・体験したことをシリーズで紹介していきます。